

第5回役員会、第4回ブロック代表者・女性代表者会議が開催される 3月8日



竹田会長は、まずコロナ禍の中、参加された皆さん方に感謝するとともに、互いに気を付けていこうと呼びかけました。

ウクライナ情勢に触れて、「核共有」を言い出す政治勢力があり、「維新」は外務省に申し入れをしている。「非核三



日退教 会長
竹田 邦明

日退教通信

No. 402

2022.5

日本退職教職員協議会

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋二一六一二 日本教育会館6F
発行責任者 竹田 邦明
TEL 03(52275)2197 FAX 03(52275)2081
Email nittaikyo@gmail.com ホームページURL http://www.nittaikyo.com

原則」の中の「核を持ち込ませず」見直しの議論に引っ張って行こうとする危険な動きであり、厳しい政治状況の中、運動で対応していこうと呼びかけました。「ロシアのウクライナ侵攻に抗議する声明」等をロシア大使館あてに送り、その一部をホームページに掲載していることを紹介しました。

定年制の延長が決定したことから、定年による退職者は2年に一度になる事態を日退教としてどう対応していくかが問われると、組織拡大の課題を指摘しました。

社会保障制度に関連して、①急激に物価が上がる中、賃金が上がらない事態が生じている、②年金は、物価と賃金に連動しているが、物価上昇より賃金上昇が少なければ、賃金に連動することになって、厳しい事態が待っている、③10月から後期高齢者の医療費窓口負担の2割がほぼ入ることになっている、と指摘し、社会保障課題は退職者連合を通して取り組んでいく、6月に予定されている組織代表者会議につながるよう議論を期待します、と挨拶しました。

質疑

①北海道の北島さんから

2022年度
単会組織代表者会議
6月9日(木) 11:00 ~ 日本教育会館

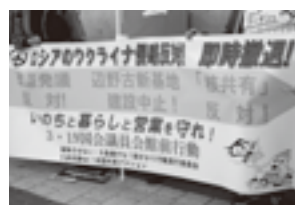
昨年総選挙について、日退教としての総括が必要ではないかとの指摘がありました。

②千葉の平野さんから「ロシア軍の侵攻に抗議する決議文」について、ロシアの軍事行動が始まるにあたって、アメリカのバイデン大統領の動きがあるのではないかと、との指摘がありました。

日退教本部から

総選挙の結果は、次の参議院選挙いつながっていくとさどうだったかと、考えていく必要がある。日退教、日教組の各単会、単組の歴史もある。維新の動きもあるが、参院選にむけてきっちり取り組んでいく。

2月24日に、ロシアがウクライナに侵攻してから東京では、3月3日、4日、5日、11日、19日、21日、4月8日に集会・デモをしました。日退教も、すべてに参加をしました。21日には、ウクライナ出身のナターシャ・グジーさんが、故郷のウクライナを偲んで日本の「ふるさと」を日本語で4番まで歌いました。その中から数点の写真を紹介します。決議は4面に掲載しました。



各ブロックのとり組み報告

①北海道ブロック



組織拡大について
北島義久さん
役員が80代になって、退職する60代と離れてしまっている。現職に声（職場で、機関紙等で）をかけてもらって、それから声をかけるように、現退一致で取り組んでいる。

沖繩については、名護市長選に取り組んだ。土地利用規制法ができて、基地監視が難しくなって厳しい闘いになり、益々、弾圧法としての姿を現してきている。

②関東ブロック



2月28日にZOOMで組織活動交流集会を行った。群馬が担当県で、最初は大変だったが、やってみて面白かった。その中で、静岡の教科書

採択の取り組みが参考になった。2社の教科書を比較して、何が問題かを指摘し、現退一致の取り組みをした。千葉では、教育予算拡大の集会を行っている、その中で小学校の担任による英語担当の問題点を指摘し、専門を配置する呼びかけを行った。

③北陸ブロック



役員になって1年間、会合をやっていない。2月17日に書面による総会を行った。会報で組織状況を交換している。福井から、ブロック女性代表者の会議が多いとの指摘があった。

石川として、ウクライナの状況を憂慮している。ロシア軍の蛮行は許せない。侵攻反対の集会があれば、現職と一緒にやっていきたい。

④近畿ブロック



関西もコロナが蔓延して単会の活動ができない。大阪では竹田会長に参加してもらって30周年記念の総会を開催した。

先の選挙では、辻元さんを落とした。維新の選挙戦術は強い。全国的に力を持つと日本の政治はとんでもないことになる。次の参議院選で古賀さんを当選させるために頑張りたい。

⑤中国ブロック



岡山として、初めて発言する。11月に中国7単会中、6単会が集まって総会を行った。組織拡大が課題で、他県の方とも交流して取り組みたい。古賀選挙、落としちゃいけないと頑張っていく。

⑥四国ブロック



コロナ禍で、ブロックとしては活動ができていない。高知では、文化部の作品展を1週間ほど開催した。友の会だよりを年に3回出している。手配りや郵送で届けている。

古賀さんの当選を目指して頑張っている。

⑦九州ブロック



大西会長に代わって坂口事務局次長がWEB参加。3月3日、4日の九州ブロック研修会・総会は中止せざるを得なかった。

3月17日に福岡で代表者会議を行って、組織拡大と古賀さんの当選を目指していく決意を固めていく。

⑧小坂淑子近畿ブロック女性代表



この間、コロナで会えなくなり残念である。総選挙後から、野党共闘を言わなくなってきた。連合が心配だ。連合会長は、発足の趣旨を忘れていないか。

滋賀は、参議院では統一候補の嘉田さんで勝利している。衆議院選挙では、4区の全てに統一候補を立てた。



日退教介護学習会を聞いて

1月18日教育会館において台東区社会福祉事業団の千葉明子先生の講演「介護保険制度・現場では」をお聞きしました。千葉先生は2000年の介護保険制度導入からその準備等に関わり、東京都の介護支援専門員の研修などケアマネージャー（ケアマネ）の育成にも努力されてきました。あいにくオミクロン株の急増のために参加者は福祉部会員など10名でしたが、介護制度



と現場の実情を聞くことができました。以下、その報告です。最初に老化テールを示され、個人差はあるが、大脳は20歳で老化が始まり、筋肉は30歳、骨格は35歳、目や歯は40歳、聴力と腸は55歳、味覚と嗅覚は60歳、膀胱と声は65歳、肝臓は70歳からと身につまされるお話から始まりました。加齢による衰えは誰にでも訪れるがフレイル（虚弱）から要介護にならずに健康寿命を保つためにも介護保険制度があり、核家族化と高齢化の中で、その重要性がますます高まってきています。そして、高齢者の身の回りの世話を超えて、高齢者の自立支援を理念とした利用者の選択によって多様なサービスを総合的に受けられる社会保険方式として、国から半額、介護保険料から半額の費用で賄い、給付と負担の関係が明確な制度である。その利用については、各自治体の手

引きがわかりやすい。介護サービスの利用には「要介護認定」の申請が必要である。申請から認定まで約1月かかるが、申請日からサービスの利用が可能であり、認定の効力は申請日に遡る。介護サービスはケアマネなどが作成したケアプランにより実施されるが、本人や家族が作成することも可能である。医療保険と異なり介護保険料の利用限度額は上限が決まっている。ケアマネは利用者や家族の話をよく聞き、その状況を理解し、必要な情報を提供し、わからないことを調べ、一人一人にオーダーメイドのプランを作成するチームアプローチが求められている。しかし、ケアマネにもいろいろな人がおり、合わなければ替える権利が利用者にはある。私の亡母は左麻痺で車椅子の生活が長かったが介護保険制度のおかげで10数年の要介護の生活を送ることができ

た。当時から誤嚥性肺炎が問題であったが、現在では常食の他にソフト食、ゼリーで食べやすい滑らか食、ミキサー食など作られ、口腔ケア介護対策も進んでいる。現在ほぼ男女半数の介護職員の待遇改善も週休二日や職員に対するロボット導入など重介護対策も以前よりは進歩しているが、祝日休が無い所もあり、利用者のハラスメントの問題など多くの問題を抱えている。今後は高齢者だけでなく、障害を持つ方、子ども、貧困家庭など区別しないで①断らない相談支援、②地域で誰もが繋がりに参加する地域づくり支援が求められる。介護制度は多くの問題を抱えながらも、私たち高齢者にも社会にも欠かせない大切な制度であることを実感させられたお話でした。

（文責 後藤康彦）

維新は恐れるに足らず、ぶれずに闘ってほしい。古賀さんを押し出すときに、「教え子を再び戦場に送らない」のスローガンのもと闘ってほしい。

⑨ 山根正子北海道ブロック女性代表

道退連と一体になつて活動している。各県の活動を参考にしながら。北退教では一堂に会することができないので資料を送り、活動している。



五者学習会でのヘイトスピーチの講演は参考になった。ジェンダーを課題に取り組むことを望みます。

⑩ 添田悦子関東ブロック女性代表

関東ブロックは、千葉も群馬も女性がないということ、ブロック女性代表は、神奈川になった。2月18日の関プロ学習会にも、呼びかけられれば参加できた。



2. 参議院選挙のとりくみ

① 第26回参議院議員選挙（7月10日投・開票予定）に日政連候補の必勝を期し、最大限のとりくみを追求する。

日政連議員候補者

古賀ちか子候補比例代表

斎藤よし子候補 愛知県選挙区

② 「日退教通信」号外1は、1月に全会員分発送したが、必勝を期し「号外2」を4月に全会員分配布する。



ロシア軍のウクライナ侵攻に抗議し、 軍事行動の即時停止を求める決議



2月24日、ロシアのプーチン大統領は、ウクライナに対する軍事侵攻を開始した。これはウクライナの主権と領土を一方的に侵害し、国家間紛争に平和的解決を定めた国際法や国連憲章を蹂躪する蛮行であり、断じて許すことができない。

また、攻撃の矛先は軍事施設にとどまらず、ライフライン、市庁舎、住宅などあらゆる民間施設と市民に向けられており、被害は甚大になっている。3月7日、国連難民高等弁務官事務所による発表では、子ども27人を含む一般市民406人の犠牲者が出ている。

戦闘の拡大に伴い、女性や子どもをはじめ多くの市民が難民として近隣諸国に避難を始めている。ウクライナにおける戦闘の停止と人道的支援が国際社会の結束した取り組みとして求め

られている。

2月24日、ロシア軍はチェルノブイリ原発を占領し、作業員92人を拘束している。ウクライナには15基の原発があり、9基が稼働している。万が一、格納容器にミサイルや戦闘機が落ちるなど、破壊されると膨大な死の灰が外部に出る。原発への送電網が戦禍に巻き込まれ遮断されると、外部電源喪失により冷却不能に陥り、メルトダウンに至れば、ウクライナはおろかロシアを含むヨーロッパ全土が放射能に汚染される事態が生じる。プーチン大統領は核兵器の使用をほのめかせ、威嚇し、恐怖を抱かせている。

一方、ワルシャワ条約機構解散後、旧ソ連邦に対するNATO加入を求めないとする歴史的経過が生かされないとの指摘がある。しかし、ヨーロッパが荒廃する前に、さらにこれ以上の死傷者を出さないために、戦争反対を訴えるロシアの人々とともに、全世界から声を上げていく必要がある。

日退教は、ロシアのウクライナからの撤退と軍事行動の即時停止を強く求める。以上決議する。

2022年3月8日

日本退職教職員協議会

ブロック代表者

(当日配布し、後日事務局で整理しました)

自著出版は郁朋社へ

☎03-3234-8923

Fax03-3234-3948

自伝、教育実践、地域闘争、
組合運動、生きた証を自著に！

◆編集後記◆

「あほ」のマスクを残して安倍隠蔽独裁政権が崩壊して以降、現在もコロナが高止まり、そして、ウクライナ問題の発生で、経済低迷&物価高騰に陥りつつある。この間のウクライナ報道では、自称軍事&ロシア評論家が連日「分析」と称して、メディアに登場。また、どれがファクトで、どれがフェイクか分からない。SNS社会を見るようだ。

根源は、産業の先進地域ウクライナが19c半ばからのロシアを始めたとする諸国の「草刈り場」であつたことを見なくてはならない。そして、今、最新兵器を使用したNATO対大ロシア主義の構図としてある。その根源にあるのは、人間の強欲さだ。

それを推進しているのは、陰謀論者のトランプ、汎ロシア主義者プーチンなどの独裁者だ。侵攻↓ 侵略に、プーチン大統領 ↓ プーチン ↓ 戦争犯罪人に、そしてキエフ ↓ キーウ となり、いま日本は、ロシア料理店への嫌がらせなど、日露戦争前の「臥薪嘗胆」状況となり、核共有、台湾有事云々に陥るのはやめよう！

(N)